第２回若手消防団員交流会

【オンライン（Zoom）開催】

※Zoom（ウェビナー）参加の方法
　下記のショートカットか、ウェビナーID とパスコードを入力してご参加下さい。

https://us02web.zoom.us/j/85412483420?pwd=aHRVYklzM3g5OWNwaGhVd0RLMVE4dz09

ウェビナーID／85412483420　　パスコード／966251

※開催日時：令和４年２月５日（土）13：00～15：00

次　　第

１　開　会　　13時00分

２　開会の挨拶
　若手消防団員活性化推進チームリーダー　　板橋　知也

３　講演　　13時10分
　★消防団員の普段からの活動しやすい環境づくり
　★実話に沿った経験談
　★消防団員入団募集等
　講師　元横浜市消防局総務部消防団課／保土ケ谷消防団本部アドバイザー
　　丸　山　　正　美 氏

４　質疑応答

５　閉会の挨拶
　若手消防団員活性化推進チームサブリーダー　佐々木　和寛

６　閉　会　　15時00分

■オンラインによる開催について

「ZOOM」のセミナー開催オプション「ウェビナー」を使用します。

■事前にアプリのダウンロードをお願いします。

(1) パソコンから参加する場合
以下の URL から、事前に「ミーティング用 Zoom クライアント」をダウンロードして実行してください。
https://zoom.us/download（Zoom ダウンロードセンター）

(2) スマートフォン、タブレットから参加する場合
以下の URL から、事前に「Zoom Cloud Meeting」をダウンロードしてください。
・iPhone / iPad:
https://apps.apple.com/jp/app/zoom-cloud-meetings/id546505307
・Android:
https://play.google.com/store/apps/details?id=us.zoom.videomeetings&hl=ja

■顔出し無し、音声無しでの参加です
・下記ショートカットか、ウェビナーID とパスコードを入力してご参加下さい。

https://us02web.zoom.us/j/85412483420?pwd=aHRVYklzM3g5OWNwaGhVdORLMVE4dz09
ウェビナーID／85412483420　　パスコード／966251

・質疑応答は「挙手機能」を使用します。「手をあげる」ボタンを押して下さい。
当日のスタッフが顔出し・音声出しへ変更作業を行いますので、終了後に質問を始めて下さい。

■なるべくパソコンでご参加下さい
所要時間は 2 時間を見込んでいますので、通信料が増大します。スマートフォンで参加の場合、携帯電話会社とのご契約プランによっては規定の容量を超えてしまい、速度制限がかかって視聴しづらくなったり、視聴できなかったりする場合があります。なるべくパソコンでの参加をお願いします。スマートフォンで参加される場合は、Wi-Fi に接続して参加してください。

■終了後、ウェビナーの機能を使用して、自動表示されるアンケートにご協力ください。ご記入後、下部にある送信をクリックしてください。
「6. その他」は予定していたグループディスカッションへの提案等、自由にご記入下さい。
なお、セキュリティー設定などによりアンケートが表示されない場合もあります。その場合は添付のアンケートをファクスまたはメールで（一財）秋田県消防協会までお送り下さい。[FAX：018-867-7320　E-mail：k.sato@shoubou-akita.or.jp]

ウェビナーにご参加いただき、ありがとうございます

以下のアンケートに入力するためにお時間を少しいただきたいと思います。

1. 年齢をお答えください *

- ○ 10代
- ○ 20代
- ○ 30代
- ○ 40代
- ○ 50代
- ○ 60代
- ○ 70代以上

2. 性別をお答えください *

- ○ 男性
- ○ 女性
- ○ その他

3. 本日の丸山先生の講義はいかがでしたか。 *

- ○ とても満足した
- ○ 満足した
- ○ 普通
- ○ 満足しなかった
- ○ 全く満足しなかった

4. 設問3の理由をご記入ください

5. 今後、受けてみたいテーマや講義内容、具体的な講師名がありましたらご記入ください。

6. その他、御意見・御感想などありましたら、ご記入ください。

送信すると、プライバシー ステートメント (/privacy)およびサービス利用規約 (/terms)に同意し、答えをミーティング ホストと共有することを承諾することになります。

送信　* 必須　回答は誰に表示されますか？

プロフィール【総務省消防庁消防団等強化アドバイザー　丸山　正美　】

横浜市消防局 47 年勤務、警防部救助課と本部特別救助隊勤務「通称・特消」、活動は横浜市全域と他都市から救助派遣要請があれば出場しました。
その後、各消防署の救助隊に従事し多くの救助事案に遭遇しました。
全国救助大会陸上の部に優勝３回
ヘリコプター導入に充て航空救助員訓練出向
各米軍基地消防隊精鋭隊員の救助訓練指導出向
皇太子殿下、晴海ふ頭に来場日本初の国際救助隊海上訓練に出向
日本初のエルサルバドル国際援助隊派遣準備出向
横須賀海上自衛隊水中処分隊指導者教育出向「潜水技術向上」
若手救助隊員の潜水訓練育成指導と救助隊員が保持する基礎的諸能力育成指導
帆船海王丸最終航海実習船遠洋航海海外研修出向

消防団業務　★２７年間

横浜市中区伊勢佐木・加賀町・山手消防団が３消防団担当事務
横浜市瀬谷区瀬谷消防団担当事務
横浜市西区西消防団担当事務
横浜市消防局総務部消防団課「公務災害補償」「福祉共済」「入団促進」「関係機関調整」
横浜市保土ケ谷消防団本部アドバイザー
消防団員の入団促進について横浜初 100 パーセント達成、消防局初のチーム横浜賞横浜市副市長表彰
男女共同参画市長表彰
神奈川県下女性消防団員地震発生救助救出訓練企画演出出向
神奈川県下消防職員消防団事務担当者講義出向「都市型消防団」
各市町村消防団派遣講義出向「訓練のあり方・入団促進」

広報活動：月刊消防「一致団結」「消防団課発足６か月連載」・東京新聞「女性消防団員活動」近代消防「遠距離送水訓練」「初期消火能力向上」・ファイヤーレスキュウ EMS「遠距離送水訓練」・消防基金「特別企画女優吉沢京子さん輝け女性消防団員意見交換」「消防団活動紹介」・神奈川新聞「消防団確保」「消防団員入団紹介」・神奈川テレビ「女性消防団員の活動」「水難訓練」・テレビ朝日モーニングバード「女性消防団員訓練」・東京新聞「ハマノ火消し女性にお任せ」・地域タウンニース「市長と消防団員ぬくもりトーク」「消防団訓練」・広報よこはま「市長と消防団員ぬくもりトーク」・J レスキュウ「遠距離送水訓練」・消防時代「消防団緊急走行訓練」

目標～カッコイイ消防団員として明るく楽しく元気にさせること

秋田県若手消防団員交流会講演

★　消防団員の普段からの活動しやすい環境づくり

★　実話に沿った経験談

★　消防団員入団募集等

★　消防団員の普段からの活動しやすい環境づくり

►①　消防団活動体制の充実・強化
►②　教育訓練の充実
►③　教育研修の充実
►④　消防署と消防団の連携
►⑤　活性化事業（各委員会の充実）

①　消防団活動体制の充実・強化

►◇　消防団員の理解を深めるため、あらゆる広報媒体を活用しPRを展開します。
►◇　創意工夫を凝らした団員募集で新たな人材確保と組織の活性化を図ります。
►◇　消防団活動に不可欠な器具置場、ポンプ資機材積載車、可搬式小型動力ポンプを計画的に更新、維持管理を徹底します。
►◇　装備・資機材の維持管理を徹底し取扱習熟に努めます。
►◇　災害現場での消防署・消防団の連携を強固にし、災害対応力と安全管理体制の強化を図ります。

②　教育訓練等の充実

►◇　自然災害に備えるため、団本部・分団本部運営訓練の 情報受伝達訓練を実施します。
►◇　救助資機材等の基礎的諸能力確認による 団員個人の知識技術向上 を図ります。
►◇　若手団員の知識・技術を向上し、 組織力の底上げを図ります。
►◇　訓練時に指導的な立場を担う 訓練指導者を育成 し、団員間で人材育成ができる体制を構築します。
►◇　実践的な集合訓練を通じ、 災害対応力や安全管理体制の強化 を図ります。
►◇　あらゆる訓練を通じて、職責に応じた指揮・指導が行えるよう 指導的な立場の団員を育成します。

③　教育研修等の充実

- ◇　職責の自覚、任務遂行に必要な基礎知識及び技術を習得するため、新入団員研修を実施します。また、未受講者に対して、分団班で基礎教育を実施します。
- ◇　若手団員の育成研修を通じて、組織の活性化を図ります。
- ◇　応急手当の知識・技術維持向上のため上級救命講習・応急救護研修会を実施します。
- ◇　地域住民に対する各種救命講習会を通して、応急手当に関する知識と技術の普及に努めるとともに防災指導力の向上を図ります。
- ◇　分団を超えた交流により、団員間の親睦を深めるとともに、研修を通じて防災知識の向上を図るため、防災視察研修会を実施します。
- ◇　各種研修により、階級や役職に応じた専門的な知識・技術を身につけさせ、団員の能力向上とキャリア形成支援を行います。

④　消防署と消防団の連携強化

- ◇　災害現場での消防団活動支援体制の構築により、署団の連携を強化します。
- ◇　消防署・消防出張所との連携強化により顔の見える関係を構築します。
- ◇　消防出張所と連携した基礎訓練や想定訓練により災害対応力を強化します。
- ◇　消防署・消防出張所との連携し、自然災害・都市災害・緊急事態応急活動・NBCテロ災害・武力攻撃災害の本部運営訓練を強化します。
- ◇　消防署・消防出張所との連携し、実践的な集合訓練を実施し、更なる連携強化を推進します。
- ◇　予防課と連携し、地域の防災訓練支援を通じて、地域防災力の向上に努めます。

⑤　活性化事業（各委員会の充実）

- 各委員会の活動を通じて、消防団員としての知識・技術の向上を図るとともに、指導的な立場の団員を育成します。また、全団員が誇りをもって活動できる環境づくりも推進します。
- 【救命委員会の充実】応急手当指導員が中心となり、応急救護研修会・上級救命講習の開催及び支援、応急手当指導員の養成等を実施し、応急救護活動の充実を図ります。
- 【広報委員会の充実】防災視察研修等により各団員の満足度を向上させるとともに、多角的な面から広報を実施し、魅力ある消防団のPRすることにより新入団員の入団促進を図ります。
- 【訓練委員会の充実】訓練のあり方、進め方、内容等について、意見・要望を取り入れながら幅広く検討を行い、消防団全体の訓練に反映させ、災害対応能力の向上を図ります。
- 【被服装備委員会の充実】分団の枠を超えて、消防団一丸となって団員の被服・装備の管理運用を継続して実施し、団員の活動環境を改善させるとともに団員のモチベーションアップを図ります。

★　実話に沿った経験談

- ▶◇　消防団員等公務災害補償について
- ▶◇　安全管理の徹底について
- ▶◇　消防団員等福祉共済について
- ▶◇　やる気を起こす訓練・研修の充実について
- ▶◇　消防団協力事業所団員の活動について

★　消防団員入団募集等

- ▶◇　カッコイイ消防団
- ▶◇　加入するタイミングが大切である
- ▶◇　地元で訓練等で頑張ってる写真を各種催し会場でパネル及び映像を展示する
- ▶◇　器具置場（詰所）シャッターに皆が目にするような明るく優しい印象に残る絵画を掲示する

西消防団だより

平成２７年冬号（通算第７号）

発行／編集：横浜市西消防団広報委員会　〒220-0041横浜市西区戸部本町50-11 西消防署庶務課内（TEL045-313-0119）

「その時」に備える震災対策各種訓練

巨大ターミナル駅や商業施設、住宅密集地などを有する横浜市西区。その地を守る西消防団は、都市型の様々な災害に対応する訓練を行っています。

８月、それぞれの分団の管轄地域を踏まえた内容の震災対策訓練を、横浜市消防局消防訓練センター（戸塚区）において実施しました。

第一分団は倒壊建物からの救助救出訓練を震災対策訓練場にて行いました。情報受伝達や救護所設営も含めた災害現場活動の総合的な内容となりました。

ダミー人形は心肺停止想定

第二分団・第三分団は、同センター内の消火訓練場にて、震災対策木造住宅密集地域消火訓練を行いました。

入り組んだ狭い道路の木造住宅密集地域が多数ある西区では、火災が起きた際いかに延焼拡大を防止するかが重要なため、消防団もその技術や知識をしっかりと身につけていきます。

（※次ページに続く）

（※前ページより続き）

４０ミリホースとガンタイプノズルを使用しての放水は反動も少ないため、女性団員も筒先や補助、伝令の経験を積み、総合的な消火力向上を図ります。

初めて放水をする女性団員は緊張した表情

訓練センターの消火訓練場を利用できたことで、いつも以上に建物の構造や部隊の配置を考えながらの有効かつ迅速な消火活動訓練が出来ました。

実災害を意識し無線を活用

津波や風水害にも備える水難救助対応訓練

また、この日の午後からは、今年で５回目となる同センターのプールを使用する水難救助対応訓練でした。

※プールに使用している塩素により活動服が変色・損傷するのを防止するため、旧活動服を着用しています。

今年度から各個人への貸与となったライフジャケットを着用しての初めての訓練は、要救助者への浮環投入から始まりました。

狙いを定めて……

ロープのついた浮環を、どうすれば要救助者のつかまり易い位置に投げ入れることが出来るか、短い時間の中で試行錯誤しながら体得していきます。

そして、救命ボートを使用しての救助訓練では、まず正しい漕艇技術を確認してから、対岸の要救助者の救出に向かうなどいくつかの想定での訓練をおこないました。

ガイドとなるロープを張ることができれば、より速く確実に移動が可能となるため、この方法についても繰り返し訓練を行います。

ご挨拶

団長　矢部 孝一

西区の皆様には、日頃から消防団活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本年４月１日より、西消防団長を拝命いたしました。

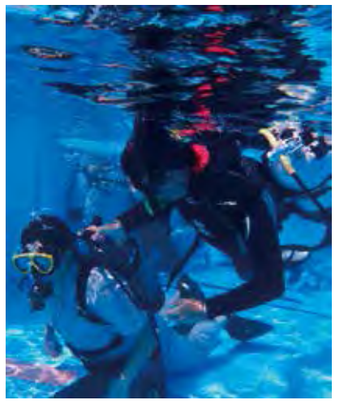
市内２０消防団で唯一、団員の条例定数充足率１００％を４年間維持している西消防団を率いることとなり、大変身の引き締まる思いと重責を感じております。皆様のご指導とご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます

平成２５年末には、住民の積極的な参加のもとに住民の安全の確保に資することを目的とする「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、これを受けて救助や消火活動に必要な資機材などを今まで以上に配置整備していただき、訓練や災害活動に一層気持ちが入っています。

また、今回はライフジャケットを身に着けての浮力体験と効率的な泳ぎ方のほか、ライフジャケットを脱いでの着衣泳と「浮いて待て！」を学びました。

海外でも「UITEMATE」で知られている

今回も、潜水士やダイビングの有資格者が指導する希望者へのアクアラングを使用したスクーバダイビング体験を訓練の合間に行いました。



都市型災害に対応せよ！車両からの救助救出訓練

２月には、西消防署構内において、本物の乗用車を２台使用した、事故車両からの救助救出訓練を実施しました。

この訓練は大型幹線道路が走る西区の立地を鑑み、大型地震など同時多発災害時に消防団でも対応が出来ないかという団員の声から生まれたもので、今回で４回目となりました。

海に面し、河川の走る低地を抱える消防団として、津波や水害に大しての備えもまたしっかりとしておかなければならないと再確認できた訓練でした。

普段なかなか経験出来ない訓練センター各施設での訓練で学べる事は多い

まず、既に貸与されているエンジンカッターや今後貸与となる救助資機材チルホールの取扱いについて、浅間町特別救助隊から指導を受けます。

強い牽引力をもつ
手動式ウインチ「チルホール」

西消防団ではこのような訓練も全て、男女の別なく実施しています。災害はいつ起こるか分からず、男性団員が必ず出場できるとは限らないからです。

（※次ページに続く）

大規模災害に対応する訓練を優先し、昨年は断念した「西消防団消防操法技術訓練会」を今年は開催することが出来ました。

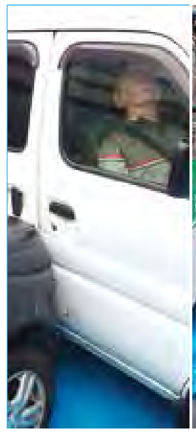
この競技は、消防活動の根幹をなす要素をすべて含んでおり、正確な資機材の取扱い及び操作による放水の準備から消火までのタイムなどを競うものです。

出場選手に限らず、団員は皆優勝を目指し、夜間や時には休日も返上してその訓練を頑張りました。

そして競技終了後は順位よりも大切な『何か』を感じ取っていたようです。これからは毎年この訓練会を開催し、地域の皆様に見学していただけるよう広報活動をしていきたいと考えています。

団員の皆さんには、今年度も後半に入り、年末年始消防特別警備、そして年明けからは大小の各種訓練が控えています。体調には十分に注意して、これからも西区の安全、安心を守るための消防団活動を宜しくお願い致します。

（※前ページより続き）



ブルーシートは悪天候により水が溜まっている表現
発見時からすべての行動を考えなくてはならない

低所に転落し、障害物の載った事故車両の想定で、内部には要救助者に見立てたダミー人形がいますが、それ以上の想定は活動隊に明かされません。

総務省消防庁から貸与されている、ストライカーや油圧切断機などの救助資機材を使用して開口部を作るなど、各隊の隊長から指示が飛びます。

情報受伝達に無線機を活用

先発隊からの報告を受け、分団本部や団本部でも時々刻々と状況を把握し、増強要請等にも応えていきます。

車内での応急処置、車外へ救出してから救護所に搬送するなども全てその時々の判断により決まります。要救助者の後の社会復帰への配慮と、二次災害防止の両方を意識しつつバックボードやネックカラーを使用しました。

仮救護所の設置と応急処置、容態の観察と報告なども含め、大災害が起きた時には必要となることを包括的に訓練できた一日となりました。

胸骨圧迫は強く・速く・絶え間なく！

夜間緊急走行訓練では震災時の放置車両対応も

１１月には、消防団員専科教育機関として、「KANTOモータースクール（横浜西口校）」にて、災害が起きた際にはほぼ必ず必要となる緊急走行の訓練を夜間に実施しました。

この訓練は毎年行っていますが、緊急走行中の交差点で放置車両と遭遇した場合どうやって通過するかなどの↖

分団長コメント

第一分団 分団長
半田 伊津美

平成9年、西消防団に女性消防団員の入団が出来るようになりました。私もその時に入団しましたが、男性団員たちのハードな活動とは違う穏やかな内容に、「私たちにも何かさせて欲しい！」と思う日々でした。

日本各地で地震やその他自然災害が次々と発生していく中、日中の在宅率の高い女性が災害に対応できるように、と男性団員たちや消防署の当時の団担当に励まされ、応急手当指導員や防災指導隊の資格取得から、男性団員と一緒に倒壊建物からの救助救出訓練、夜間緊急走行訓練、遠距離送水訓練等々にも参加するようになり『花を添える女性消防団員』から状況は一変しました。

あの頃、私たちを引っ張ってくれた皆さんには感謝しています。

私たち一分団の受け持つ地域には狭い道や急な坂が多く、木造住宅が密集し、高齢の方がたくさん住まわれています。

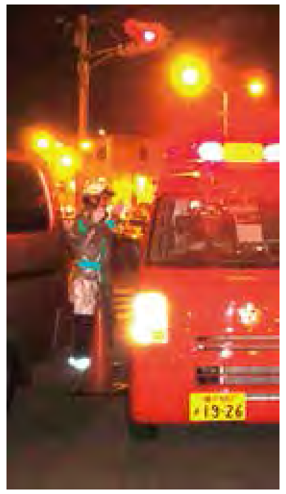
西消防団だより <第7号> 平成２７年１２月

実災害を想定した状況も用意され緊急走行以外のことも学べるため、普段は緊急走行機関員の任にあたらない団員も多数参加します。

実際の災害出場と同様、災害情報配信メールを受信し自班の出場計画区域かを確認。出場区域であれば班単位にて出場します。

周囲に配慮しサイレンの吹鳴は行いませんが、車載マイクを使用した交差点進入時のアナウンスも練習しながら、教習コースを何周も走行しました。

駐停車車両や落下物、歩行者への注意、乗車・下車の手順や誘導などと共に、震災時に交差点へ放置された車両やがれきなどの想定にも臨機応変な対応を求められます。



緊急走行中の二次災害を防ぐには、自己過信と焦りが禁物、ということを団員たちは心に刻みこみました。

保土ヶ谷消防団と合同で消火・救助救出訓練実施

１２月、木造住宅密集地域消火・救助救出訓練を、横浜市資源循環局保土ケ谷工場（保土ケ谷区）の敷地内で実施しました。

隣接の保土ヶ谷消防団との合同訓練も今年で5回目。震災で消火栓が破裂や埋没等で使えなくなった場合を想定した木造住宅密集地域での遠距離中継送水による消火訓練と、倒壊建物からの救助救出訓練を併せて行いました。

デジタル無線機による情報受伝達

（※次ページに続く）

防災指導に訪ねた折には、自助はもちろん、隣近所で声を掛け助け合っていきましょうと共助の呼びかけも欠かせません。そのような町を守るためには様々な訓練を積み重ね、災害に対して臨機応変に対処していく術を身につけることが重要と感じています。

初代の女性分団長のように細かな気配りが不得手な私ですが、団員の協力でまとまりある一分団の維持と新しい仲間作りに努力したいと思っています。

第２分団 分団長
瀧澤 登

第二分団の平成27年を振り返って見て、西消防団の事業方針に基づき、地域減災力の向上に重点を置き、消防隊と消防団が連携した木造密集地域・道路狭隘地域における延焼阻止を中心とした地域減災力の強化を中心に活動を行ってきました。

私たちが住んでいる、久保町・東久保町・藤棚町等は、道幅が狭く階段が多い場所で、消防車両が進入できない木造住宅が密集している地域です。

もし火災が発生すれば、延焼火災 ←

（※前ページより続き）

倒壊建物エリアには
保土ヶ谷消防団が先着

横浜市内で震度６を観測する地震が発生し、保土ヶ谷区の木造住宅密集地域で複数の建物倒壊と建物火災が同時に起きたという想定で、建物内に要救助者が多数いるため、先に活動をしていた保土ヶ谷消防団からの増強要請を受け、西消防団が消火と救助の各活動に出場するというものです。

火点想定の擁壁保護のため噴霧放水

火点の最寄りの消火栓などの水利が使用できない状況という想定のため、高低差のある土地で複数本のホースと可搬ポンプを使い、遠距離中継送水によって消火活動にあたります。

消火隊に続き、西消防団の救助隊も活動を開始。災害現場の状況を把握しながら人命検索をおこない、小隊長の指示のもと、救助資機材などを用意して使用していきます。

建物内に複数の要救助者を発見。がれきを排除して開口部を作り、要救助者の傷病程度を観察・判断しながら、各隊が連携して救助活動にあたります。

要救助者の未来を考え、頸椎・腰椎・脊椎を揺動させないよう留意しながら救出し、イモビライザーで固定するなどして救護所まで次々と搬送します。

今回の訓練は、各活動隊と分団本部、分団本部と団本部、それぞれの間での正確で迅速な情報受伝達についての習熟も目的の一つでしたが、確実に前回の訓練よりもその技術は向上していると実感できました。

分団本部と団本部の間もデジタル無線で交信

何よりの成果は、隣接消防団との合同訓練により、お互いの良い点を吸収し合い、士気を高められた事でした。

←

へと発展しやすい地域でもあります。そのために、日頃から地元地域の状況を把握し、消火栓の位置を確認し、全団員ホースの延長、接続要領　筒先の接続要領等確実に操作出来るように訓練に励んできました。

また、平成２７年は、西区消防操法技術訓練会も開催され、新入団員にとって消火活動を習得するのにとても良い年になりました。

この訓練によって、明るく自信に満ちた団員相互間の育成も出来て、チーム二分団として活動できたと思っています。もちろん、西区消防操法技術訓練会では、二分団が優勝するとともに、新入団員が戦力として消火活動に参加でき、消防力の強化につながったと感じています。

消防団の活動は、消火活動のみならず、大規模地震における救助活動、地域住民の皆様への防災指導、防災・減災に向けた啓発活動を行います。自らの地域は自らで守るという精神に基づき、自らの意思で参加した団員により組織され、チームで行動することが要求されていて、危険な災害現場での活動や様々な任務において、指揮命令系統でリーダーの指示に従い活動します。

今後もチーム２分団として、地域密着性・即時対応力・多方面にわたり要員動員力を高めて、日夜、精進を重ねていきたいと思います。

実河川も使用しての風水害対策水難救助訓練

関東も梅雨を迎えた6月、来たるべき台風シーズンや予測不能なゲリラ豪雨に備え、西消防署および大岡川での水難救助訓練を実施しました。

普段は穏やかだが、安全管理に
関しては特に厳しい矢部団長

要救助者を演じているのは潜水士の資格をもつ大竹訓練担当部長

ライフジャケットと自己確保の為のロープ、保安帽などをしっかりと身に着け、まずは川の中の要救助者に浮環を届かせる訓練をおこないます。

足場が悪く不安定で、上空に桜並木の枝も張り出しているため、なかなか思ったようには浮環が飛ばせない事を実感しました。

続いて、警防課の指導のもと、救命ボートの正しい組立や解体の訓練に移行。ほぼ金属製で各パーツには重量があるため、模範展示を見たのち、指の挟み込みなどに注意をしながら実際に団員の手で組み立てていきます。

その後、広い低地と河川、地下街のある西区ではとても重要な、水防工法についても学びました。

土嚢積みの基礎知識や技術をはじめ、市街地で特に必要とされる、はしごとブルーシートで止水板を作り、ドアなどからの浸水を防ぐ水防工法についても指導をうけました。

今回は、袋に土砂を詰めて口を閉じ、土嚢を作成する時点からの訓練でした。女性団員も率先して参加しています。

第三分団　分団長
小長谷　修司

われわれ第三分団は受け持ち区域が広く、第五地区・第六地区・みなとみらい２１地区（一部）などの横浜駅西口を含む繁華街、河川や海に囲まれ海抜の低い岡野・平沼、急傾斜地の軽井沢・浅間台など、極めて変化に富んでいるため、「地域に根ざした消防団活動」をモットーに、防災指導や地域防災拠点訓練、地域イベントにも積極的に参加するなどして、安心・安全の街づくりを常に心がけています。

平成２７年度は消防操法大会があり、９月までは小型ポンプ操法の訓練に力を注いだため、その他の本格的な訓練がなかなかできませんでしたが、年度の後半からは基礎訓練を通じ、女性消防団員・新入団員に対して、資機材の取り扱い・ポンプを使った消火活動が行えるよう力を入れて参りました。

西消防団全体では団員の定数を満たしていますが、定年制ということもあり、この街を守るための団員が足りておりません。地域で私たちとともに活躍してくれる消防団員を随時募集しておりますので、是非よろしくお願いします。

西輪の輪

この西区の安全・安心をともに守る西消防署よりコメントを頂きました！

すべては地域のために

西消防署長　中嶋 俊明

平成２７年４月１日付で西消防署長に着任いたしました中嶋でございます。

西消防団の皆様には、日頃から地域防災力の向上にご尽力いただき感謝申し上げますとともに、本当に心強く思っております。

さて、東日本大震災が発生してから４年９か月余が過ぎましたが、被害が甚大であったがゆえに復旧・復興がなかなか進みません。そのような中においても南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、この地震が起こると東日本から西日本の広範囲にかけて被害をもたらし、死者３２万人、全壊・焼失棟数２３８万棟、避難者数は９５０万人に達すると想定されております。

ともすると、この数字の中に「自分だけは入っていない。入るはずがない」などと、都合よく考えてしまいがちですが、「地震が起きたとき何処にいたか」によって自身の命運が左右されてしまうことは否めません。

大地震等の危機は私たちの都合とは関係なく、いや応なしに必ずやってきます。そして、大きな被害が発生することは避けられませんし、高齢の方や身体の不自由な方の援護を最優先に考えていかなくてはなりません。

そういう意味におきましても、消防団の皆様に寄せられる期待は、ますます高まってきております。消防署といたしましても、矢部団長が掲げる「すべては地域のために」というコンセプトの下、消防団の皆様とともに西区の安全・安心のために一致協力してまいる所存でありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

女性消防団員のパワーに圧倒されました

西消防署副署長　小笠原 敏

これまで多くの消防署で勤務し、様々な消防団と連携して活動をしてきましたが、西消防団を知って、女性消防団員の皆さんの圧倒的な行動力に驚くとともに頼もしさを感じました。火災現場や訓練での指揮・活動、地域での防災活動はもとより、団の組織運営に至るまで、パワフルに、かつ的確に行動し、また、発言されていたのです。火災現場で、消防署の消防車からホースを伸ばし、放水活動をした女性団員や男性と全く同じ訓練を同じ装備で行う女性団員の姿を伺った時には感動すら覚えました。

また、ソフト面では、地元自治会・町内会に頼りにされる消防団を目指し、防災訓練などのアドバイスを献身的に行ってこられました。

平成９年に男性しか認められていなかった消防団に、女性への門戸が開かれました。それから１８年が経ち、現在、西消防団員総数の４割弱が女性団員となり、副団長をはじめ、様々な階級の女性団員の皆さんが、それぞれの特性を生かし元気に活動されています。女性団員の並大抵ならぬ努力はもちろんですが、女性が入団し活動しやすい環境をつくられたのは、擁護するわけではありませんが、男性団員のおかげでもあるとも思います。

消防署としましても、消防団と引き続き連携を深めていければと思います。よろしくお願いします。

消防署と消防団は
顔の見える関係を
これからも
築きます！

第一分団

西消防団では全分団が参加する大型訓練だけでなく、各分団の管轄する地域の特性を考慮した分団別訓練や新人教育にも力を注いでいます。

各分団訓練担当からのコメントも添えて、そのような分団ごとの活動を一部ですがご紹介します。

訓練指導者
小島 一之

今年は我々第一分団が西消防団代表として、２年に１度の横浜市消防操法技術訓練会への出場が決まっていた為、定例の訓練日の他、春先から週２回の夜間訓練を入れ、１０月の本大会に向けて昼夜操法訓練に励んでいました。

西消防署職員また西消防団からは団本部はもちろん、第二分団及び第三分団の協力も得て、無事大会へ選手を送りだす事ができました。

あいにくの雨だったが選手は気合充分

ご支援を賜りました皆さんにこの場をお借りして、心より御礼を申し上げたいと思います。有難うございました。

消防操法の動作には全て意味があり
実災害の対応時にも役立っている

市民の方には、小型ポンプ操法というのは、なかなか馴染みがないと思いますが、我々消防団員にとっては消防の基本となるもので、礼式はもとより、規律ある動作及び的確な命令行為の伝達、ホースの延長・結合・搬送要領、尚且つポンプの基本的な操作の習得、火点への正確な放水など、出場選手ばかりでなく、サポートする団員にとっても消防の基本が学べる重要な訓練のひとつだと思います

伊勢山皇大神宮での訓練も定期的に実施

現在、西消防団第一分団は、協力事業所としての伊勢山皇大神宮の２２名を含め、全体で７０余名の団員で活動をおこなっております。

本年４月、掃部山公園内に
第一分団第一班の器具置場が完成

我々第一分団管内には災害時に大規模な延焼拡大の恐れがある木造住宅密集地域や道路狭隘地区などが含まれており常設消防と共に、我々消防団が延焼防止につとめるべく、日々訓練活動に励んでいます。

第二分団

訓練指導者
内田 謙一

今年度は、新たに女性団員が数名入団をし、ベテラン団員ともども、基本的な訓練はもとより、都市型消防団として大規模・多様化する災害に応じた訓練を、団員の安全管理を徹底した上で、住民の生命・身体及び財産を守り、被害の軽減を図ることを目的に、第一分団訓練指導者として、今後も訓練を続けていきたいと思います。

（※次ページに続く）

（※前ページより続き）

不十分であると考えています。そこで現在第二分団では、実際の第二分団管内の住宅地域での消火及び救助救出活動を想定した訓練の充実を図っていきます。

特に西区は土地の起伏が多く、また住宅が密集し道路が細く入り組んだ地域も多いため、昨年より開始した境之谷消防出張所消防隊員との連携訓練などは私達が管轄する住宅地域でおこなう非常に貴重な訓練となっています。

境之谷消防隊との連携訓練。
階段や狭い道路、急坂にホースを延長していく。

低区消火栓から中継ポンプを介し
中距離送水をおこなう。

ただ、この様な実戦的な訓練では可搬式小型ポンプの音やホースの延長などにより近隣の方々には多少なりともご不便をお掛けする事もあるかと存じますが、安全には十分配慮して訓練を実施致しますので、地域の安心のためにも住民の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

第三分団

訓練指導者
川副 保馬

今年１０月に訓練指導者を命じられました。第三分団は災害出場や各種訓練、応急手当・防災指導等に積極的に多くの団員が参加しています。

第三分団の受持ち区域には日本でもトップクラスに乗降客が多い横浜駅、買い物客で混雑する商業施設がある一方、木造住宅が密集し高低差のある地域や河川・海等もあるため、さまざまな都市型災害対応の訓練を計画・実施しています。↖

現在、団員の三割が女性消防団員です。男性消防団員は、地元から離れた会社等へ勤める方が多く成りました

そこで女性消防団員の基礎訓練を、１２月１３日より４回工程で実施することとしました。日中地域にいる事が多い女性団員もより現場活動が出来る様、礼式から資機材取扱に熟知し、消火活動が出来る女性団員に成って貰いたいと考えています。

此からも団員の要望やアイデアを取り入れながら、地域に合った内容の訓練を続けて行きたいと思います

いかがでしたか？
西消防団の１本部３分団２３０人は、年間を通し大小のさまざまな訓練や講習、点検をおこない、また、火災や自然災害などが起きた際には出場して、地域防災・減災のために日々頑張っています。
防災指導や応急手当普及啓発などの活動にも積極的に取り組んでいますので、機会がありましたら是非ご参加ください。

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」制定に伴う活動充実強化費について

平成7年の阪神・淡路大震災や、平成２３年の東日本大震災、そして局地的な豪雨、豪雪や台風等による災害が各地で頻発し甚大な被害を生じていることや、首都直下地震等の発生が予測されていることから、平成２５年１２月、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」（以降「消防団中核法」と省略）が制定、施行されました。
この法律は、消防団を中核として地域防災力の充実強化を図り、住民の生命、身体及び財産の災害からの保護を目的とするものですが、これを受けて横浜市でも自助・共助の取組の推進や、減災目標の達成に向け、地域特性に応じた円滑な消防団活動が行える体制づくりを推進するための、「消防団活動充実強化費」（以降「充実強化費」と省略）が創設されました。
西消防団でもこの充実強化費により、各種資機材の新たな配置や整備がおこなわれましたので、執行内容や今後について、西消防団本部庶務部で会計を担当する大澤本部部長からご説明いたします。

本部部長
大澤 秀一

もともと災害活動に対して前向きな姿勢の西消防団でしたが、東日本大震災以降、地域を守る消防団員としての意識の変化が更にはっきりと現れ、団員がゴーグルなどをはじめ活動時の身の安全や効率を意識した装備を自らの用意するなどの動きが出てきました。
この流れの中、２５年１２月に「消防団中核法」が公布・施行され、横浜市でも新たに「充実強化費」が計上されました。
西区の立地事情を見ても、大雨や津波襲来時には各河川の氾濫が予想される海抜の低い地域や、がけ崩れ警戒地域や道路狭隘地区など様々な危険地域が多数存在しており、そこに幹線道路が複数通り1日２２０万人の乗降客数を擁する横浜駅をも抱える等の条件の中、いざ大型災害が起きた際には予想外の問題も発生すると考えられます。
そこで西消防団ではまず前期に、水利の不便な場所での消火活動に有効な「組立式防火水槽」を団本部が導入、

（※次ページに続く）

（※前ページより続き）

また、各分団もその受持ち地域に合わせ、急傾斜狭隘道路での大災害時に機動力となる「電動アシスト自転車」を導入したり、風水害や高所活動時の自己確保に欠かせない「安全環つきカラビナ」や災害現場の照明活動にも使用する「発電機」を増強するなどしました。

そして後期は、災害現場における情報受伝達に使用するため日頃より要望の強かった「デジタル無線機」を７台増強、団本部４台、各分団１台ずつの追加配備。また、「４０ミリホース」と「媒介金具」、「ガンタイプノズル」も増強し、木造住宅密集地域の消火力を強化するとともに、これらを利用した地域の防災指導にも役立てました。

来期以降は、無線交信が困難な器具置場に「屋外無線アンテナ」の設置や、より軽量化された「ポータブル発電機」、階段等で搬送可能な「ターポリン担架」などなど、各分団の意見・要望を取り入れ、より一層地域性に対応した活動が可能な資機材などを増やし、地域防災力を高めていくよう予算の執行を計画していきます。

こうして配備された資機材などを活用した様々な訓練を実施し、また、署との連携を進めて、災害現場に於いて、後方支援のみならず、署員と団員がより協力して活動出来るよう、技術の向上も目指しています。

平成２７年度西消防団 消防操法技術訓練会

１０月、秋の爽やかな青空が広がるみなとみらい２１地区、パシフィコ横浜管理用通路にて、２年ぶりとなる西消防団消防操法技術訓練会が開催され、出場各隊が日頃の訓練の成果を競い合いました。

選手たちは朝から準備に余念がなく、応援する仲間の団員たちの表情にもどこか緊張感が滲み出ていました。

大久保智子西区長をはじめ、沢山のご来賓の方々の列席をたまわり開会式が始まり、優勝カップが前回優勝の三分団から矢部団長へと返還されます。↖

選手の一挙手一投足に会場が注視し、それに応えるかのごとく選手の動きのキレも増していきました。

熱戦の結果、見事優勝したのは第二分団第一班、そして惜しくも準優勝となったのは第三分団第一班、そして三位は第三分団第二班が獲得しました。残念ながら入賞とならなかった隊も次回の優勝を心に誓い、訓練会は幕を閉じました。

「私たち、消防団員です」 女性消防団員強化訓練

全団員の１／３以上という、全国でもトップレベルである西消防団の女性団員比率。

その女性団員の強化訓練を、戸部本町ケアプラザの協力のもと、３月に実施しました。

（※次ページに続く）

（※前ページより続き）

この訓練は、南関東にマグニチュード７の地震があった想定で、施設関係者と女性消防団員が連携して、高齢者の建物内の安全な場所への避難誘導を実施し、傷病者に対しては適切な応急処置を施すというものでした。

西区の土地柄、大きな震災の際には懸念される津波の警戒をしつつ、周囲や建物内の情報収集をおこない、団本部の統率のもとに活動を各所で展開していきます。

窓の外を確認し、無線で交信する。
このような資機材の取扱いの習熟も必要。

震災対策訓練が終了した後は、戸部本町ケアプラザ職員の方々から、車いすの取扱いや介助の注意点についてのレクチャーを受け、非常に有意義な一日となりました。

災害は男性の帰宅を待ってくれない、という東日本大震災当日にも感じた事実より、男性団員不在時でも大規模災害に対応できるようにとの狙いでこの訓練は実施されました。

めざせ、応急手当指導員１００パーセント！

横浜市では消防団員が消防吏員と同様に応急手当指導員の資格を取得することが可能です。

西消防団では、災害現場での応急手当活動と、地域への応急手当普及啓発の両方により高い成果をもたらすこの応急手当指導員認定を、全団員が受けることを目指し上級救命講習を年に３～４回開催しています。

心肺蘇生法やＡＥＤの取扱い、三角巾法などの各種応急手当法を身に着け、再履修や講習指導の補助をすることにより、市民への指導方法についてもお互い切磋琢磨をしていきます。

また、１１月には救急救命士による消防団の応急手当指導員スキルアップ講習も開催し、より応急手当の実施と指導についての知識と技術を高めることができました。

指導の際にどんなツールを使うかも研究

貴重な機会、団員からは次々と質問が飛び出す

西消防署の消防団担当に二人のニューフェイスが着任！ さっそく西消防団だよりにコメントをいただきました！

いつもニコニコ顔の印象、石井さん

保土ケ谷消防署より西消防署境之谷消防出張所に異動となり、３年間勤務した後、４月１日に庶務課消防団担当に着任しました。今までの仕事は、消防隊と予防課勤務が多く、消防団事務は初めての経験になりますので、ご指導よろしくお願いします。

西消防団は、都市型消防団の先端を行く消防団で市内唯一充足率１００％を誇る消防団であることは、知識として分っていましたが、着任し実際に消防団の方と一緒に仕事進めると、自ら進んで活動していることに驚き「都市型消防団」と言われる由縁を改めて感じました。なかでも女性団員の積極的な活動には驚かされました。

これからもますます「自ら進んで活動する西消防団」が、地元区民に愛される組織であるように願っています。

（石井 達男）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ウワサのイクメンパパ、田中さん

平成２７年４月１日に緑消防署から西消防署に異動となり、同時に消防団担当に着任いたしました。西消防団と言えば非常に活発な消防団だと聞いておりましたが、まさしくその通りで、いつも団員の皆さんのやる気や行動力に圧倒される毎日を過ごしております。

さて、西消防団は都市型消防団として様々な活動を実施しておりますが、今回の西消防団だよりの発行により、その活動内容を市民の皆様にお伝えできることを非常に嬉しく思います。

しかし当然ではありますが、ここに記載されている内容は西消防団のほんの一部でしかありません。この広報紙を手に取り、もし消防団活動に興味を持っていただけたなら、是非とも西消防署までご連絡ください。西消防団は共に活躍して頂ける方の入団をいつでもお待ちしております。（田中 郁也）

地域イベント参加で活動紹介と団員募集！

１０～１１月は地域イベントに参加の機会が多く、こども防火衣試着やバルーンアート配布をしながら消防団の活動紹介と団員募集をおこないました。

１０月に西スポーツセンターで開催された「スポーツ・レクリエーションフェスティバル２０１５」では消防団ブースに心肺蘇生法とＡＥＤのコーナーを併設し、沢山の方に体験をしていただくことができました。

１１月の「第４０回西区民まつり」では、恒例のヨーヨー釣りが大人気、こども防火衣試着にも親子連れの列が途切れることはありませんでした。

同月の「第１３回戸部本町地域ケアプラザまつり」では、バルーンアート配布やこども防火衣試着コーナーのほか、横浜市消防局キャラクター「ハマくん」が登場、消防団のＰＲに一役買っていました。

※イベント参加の際に、消防団活動の画像をパネルにして展示しています。ご質問等ございましたら、お気軽に団員へお声掛けください。

防災指導や救命講習で地域防災力をアップ！

この一年を通じ、西消防団は区内の町内会・自治会や学校などへの防災指導や、応急手当啓発活動を多数実施してきました。

最も身近な初期消火器具である住宅用消火器の取扱い方法や注意点を説明、訓練用水消火器で「火事だ！」と声を出しながらの消火を体験して頂いたり、消火栓に接続でき、木造住宅密集地域及び道路狭隘地域の共助による減災に有効なスタンドパイプ式初期消火器具の取扱い説明や、準備から放水までの訓練指導なども行いました。

スタンドパイプ式は消火栓への接続が簡易

また、団員の６割以上が応急手当指導員資格を取得している消防団として、町内会・自治会、イベント等での心肺蘇生法やＡＥＤの啓発、中学校での救命講習指導にも積極的にあたりました

このような市民向けの訓練や講習指導を、全分団合計で年間１５０件以上行い、地域の自助・共助の力の向上への貢献を実感できた一年となりました。

編集後記

今年は、火山噴火活動や爆弾低気圧による突風、記録的な豪雨など、今まで以上に様々な自然災害を意識させられる一年でした。

記事にもあるように「消防団中核法」が施行され、私たち西消防団も地域防災・減災の要であろうと尚一層の努力をしています。

この「西消防団だより」を通じて、私たちの活動を知っていただければ何よりです。

そして、消防団活動に興味をお持ちいただけたら、是非入団を！

『来年の表紙はあなたかもしれない！？』

（西消防団広報委員会）

ここにあります、あなたの手から始まる地域防災

西消防団 団員募集！

満１８歳以上で横浜市西区内に居住、または勤務・在学している方なら男性でも女性でも入団できます。

お問い合わせは 西消防署庶務課 入団促進アドバイザー 電話 045（313）0119